

CD書籍『現代蒙古語方言二種 ―ウールト系とスニト系の蒙古語方言―』



■編著者 吉池孝一

- ・古代文字資料館発行 2018年
- ・全71頁(PDF) CD1枚とトールケース
- ・定価 2,500円

■購入方法。

①お申し込みはEメールで下記アドレスまで。

kodaimoji_sk@yahoo.co.jp

1. 書名 2. 送付先住所 3. 購入申込者
(受取人氏名)を明記下さい。

②お申し込みの後、書籍代金(2,500円)を下記銀行にお振込みください。

※振込手数料はご購入者の負担となります。

銀行口座：三菱UFJ銀行 日進支店
普通貯金 0216524

口座名：古代文字資料館

③振込確認の後、CD書籍を郵送します。指定銀行への代金振込は書籍受取りの後でも可です。※公費支払いの場合必要な書類等お知らせ下さい。

本書の内容

※①CD画面上のファイル「現代蒙古語方言二種」をクリック → ②「項目1(表紙)から5(著者紹介と奥付)のファイル」をクリック。どの項目からでも開くことができます。

1. 表紙

2. ホロンバイル盟ウールト系蒙古語方言の音韻

3. ホロンバイル盟ウールト系蒙古語方言の基礎語彙

インフォーマントは内蒙古自治区呼倫貝爾(ホロンバイル)盟出身の話者。伊敏(イミン)河中流の伊敏公社で生まれ、その後転居はしたものの成人するまでホロンバイル盟を離れることはなかった。氏は自身の言葉を評して、父親ともイミン河流域の人々とも異なる部分があり一層標準的な蒙古語となっていると述べるが、その発音は服部(1936)(1937a)により報告された「オイロト」方言の音特徴と一致している。

4. スニト系蒙古語方言の音韻

インフォーマントは内蒙古自治区・蘇尼特(スニト)右旗出身の話者。蘇尼特方言の調査報告としては、孫竹(1990)および烏力吉布仁(2001)がある。本インフォーマントの発音には両報告書とは異なる部分があるため「スニト系」の蒙古語方言と称して音系の記述を試みた。この方言はハルハ方言に属すようであるが、本インフォーマントの発音がどの程度チャハル方言の影響を受けているか興味深いところである。

5. 著者紹介と奥付